

ポスター発表 | 術後遠隔期・合併症・発達・諸問題2

■ 2025年7月11日(金) 16:10 ~ 17:10 ■ ポスター会場 (文化会館棟 2F 第1・2ギャラリー) 4

ポスター発表 (II-P03-4)

術後遠隔期・合併症・発達・諸問題2

座長：高橋 健 (順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科)

座長：竹田津 未生 (北海道療育園)

[II-P03-4-05] 純型肺動脈閉鎖および重症肺動脈狭窄症の中長期予後

○田中 秀門¹, 桑原 直樹¹, 寺澤 厚志¹, 山本 哲也¹, 桑原 尚志¹, 小倉 健², 淵上 泰², 岩田 祐輔² (1.岐阜県総合医療センター 小児循環器内科, 2.岐阜県総合医療センター 小児心臓外科)

キーワード：PA/IVS、cPS、中長期予後

【背景】純型肺動脈閉鎖 (PA/IVS) および重症肺動脈狭窄症 (critical PS: cPS) は新生児期より経皮的肺動脈形成術 (PTPV) や体肺シャント術 (BTS) を必要とする。また、右室形態や三尖弁径などにより二心室循環または単心室循環を目指す症例があり、転帰は多岐にわたる。【目的および方法】2005年1月から2024年12月31日までに当院で治療したPA/IVSおよびcPS患者について治療歴、死因、類洞交通の有無を検討した。二心室循環群(B群)、単心室循環群(S群)に分けて遠隔期のBNP、HANP値およびチアノーゼの有無を比較した。S群をPA/IVS(SP群)とcPS(SC群)、B群をPA/IVS (BP群) とcPS (BC群) に分け、エコーでの残存PS、PRの程度も比較検討した。【結果】対象患者は37例、PA/IVS 27例、cPS 10例。B群 18例 (BP群 10例、BC群 8例)、S群 19例 (SP群 17例、SC群 2例)。観察期間は中央値 9年4か月 (17日-19年3か月)、死亡例は4例 (11%) であり、死因は突然死 1例 (SP群)、BTS術後2例 (SP群、BP群)、事故死 (非心臓関連) 1例 (SC群)。類洞交通は12例に認め、全例S群であった。BNPはB群 10.6pg/ml (5.8-23.1)、S群 8.9pg/ml (5.8-191) ($p=0.95$)、HANPはB群 37.5pg/ml (17.3-92.6)、S群 18.5pg/ml (10.1-237) ($p<0.05$)、SpO₂はB群 98% (89-100)、S群 92.5% (80-97) ($p<0.05$)。B群のうち、PTPV後に手術介入を受けたのは、BP群で10例中5例 (50%)、BC群は8例中2例 (25%) だった。残存PSはBP群で13.5mmHg (3-36)、BC群で10.5mmHg (1-40) ($p=0.63$)、PRはBP群で moderate 4例、mild以下 4例、BC群で moderate 4例、mild以下 4例と差はなかった ($p=1.0$)。【結語】BP群に早期死亡はみられたものの、その後の予後は良好であった。単心室修復例はチアノーゼ傾向にあり、BP群とBC群を比較するとPTPVに加え手術介入する例がBP群に多かったが、最終的なPS, PRは同程度であった。